

## これまでの取り組み紹介



### 第3回家守塾（平成23年3月6日開催）

第3回セミナーに先立ち、家守が動き始めようとしている現場を、清水先生はじめ助手の宮本さん、そして一緒に参加して下さったアタミスタの市来さんと訪問し、意見をいただきました。

夕方から開催したセミナーでは各家守が、自分の町で何をしたいか考えていることを発表し、先生から、補わなければならない考え方などを教授いただきました



### 発表内容

#### a) JR 高田駅前サンライズビル

FM ラジオとの連携で情報発信ができそう

音楽をツールとしたつながりを生み出したい

#### b) 天神橋の空き店舗 リノベーションをやってみよう

高齢化した商店街のメンバーと、ちゃんと付き合える若い人を呼び込みたい

#### c) 片塩商店街 ①大和高田市製造業のアウトレット

#### ②屋台村

#### d) 長谷街道や市町どおりの価値をウィキペディアで発信

町の歴史や誇りを伝えていきたい

まだまだ補わなければならないものがありますが、とにかく形にしていくため計画作りをしながら考えていくことになりました。

○大和高田版家守育成塾の進め方

**Aの方法** 少人数グループでいきなりやる 事例を作る

**Bの方法** Aを導くまでに、呼びかける

大和高田はAB混合で進めることにしました

○清水先生の考え

次の世代の現実論として、20年先の近未来を見据えまちが飯を食えるようにする

駅のまわりには必ず商業が残る！

団塊の世代対象のサービス産業を考える

### ステップ1

- ・何を資源と見るか 皆が考えられるようにすること
- ・歩いて観察 見つけたら磨く
- ・近未来をどう読むか
- ・やる気のある人をどれだけ集められるかがポイント

① 残すもの守るべきもの出しつくす

② 地域資源になる

③ いいものあるじゃないかと意識する

トライすることは何かはっきりしてくる

課題・問題

課題問題は理屈になるので先に出さない

私は大和高田をこういう町にします

○月○日 山田太郎

紙に書くことで、気持ちの上で責任が生じる

自分のエリアで何をしたいか、何ができるか考え行動する人が2~3人いれば始められる

出来るだけメディアを通じて知らせ、取材報道 情報発信

**来たくなる会にする**

女性・若い人・アイデアの出せる人・のびのび意見の言える人を混ぜてグループを作る

## ステップ2

将来の資源足りうる遊休施設を活用

若い人たちが寄ってくれるようにするにはどうするか 具体的に始める

特定エリアをどうするか、本気でコアになりリスクを共有できる人が現れることが必要

### 先進事例

盛岡では、やる気ある人が事業を進めるため自分たちで資金を出した

35万円×3名 空きビルの2階を借りきってテナントミックスを実施

### 家守の活動の原則

まちの活性方法 ①住む人を増やす ②来る人を増やす

近未来(20年先)を見据えてまちづくりをやる

- ・残さなければならないもの＝まちの価値は何か
- ・それを使って町が稼げるようにするにはどうするか
- ・若い人が集まってくるようにするにはどうするか

みんなが考えるようにする

- ・アイデアが出たら形にしていくこと

その積み重ねがまちをつくっていく

町がさびれていくのを嘆いたりせず、やる気のある人を一人でも多く募り、今後も家守事業を地道に続けていきたいと考えています。